

生中通辰

平成28年12月22日(木)

生駒市立生駒中学校 文責 校長 藤原康成

「口蓋垂」自分の知らないところで人は支えられ、生かされています。

今年も残すところ、あとわずかとなりました。皆さんにとっての2学期は、そしてこの一年はどんな時間だったでしょうか。ゆっくり自分自身を振り返ってみましょう。私にとってこの一年は、新しい出逢いの年でもありました。みんなと出逢ったことはもちろんですが、初々しい入学式から始まり、驚いたのはたけまるホールでの全校で行った合唱コンクールでした。もちろん各学級の歌声ハーモニーも素晴らしかったけれど、一番初めに全校で歌った校歌の響きが今も体中に残っています。きっとみなさんも覚えていると想います。今日はみんなが集まる今年最後の終業式です。さわやかな校歌の大合唱で一年を締めくくりましょう。

校歌は生駒中のなかまとなかまをつなぐ「架け橋」です。思い切ってなかまと一緒に歌い上げましょう。



私の心に残る相田みつをさんの詩を一つ紹介します

柔道の「受身」負ける練習

『柔道の基本は受身、受身とは投げ飛ばされる練習、人前で叩きつけられる練習人前で負ける練習です。つまり、人前で恥をかく、練習です。柔道の基本はカッコよく勝つことを教えない。素直に転ぶ事を教える。いさぎよく負けることから教える。長い人生にはカッコよく勝つ事よりもぶざまに負けたり、だらしなく恥をさらす方がはるかに多いからです。だから柔道では初めに負け方を教える。しかも、本腰を入れて負け方を教える。その代わりに、転んでも直ぐに起き上がる、負けても直ぐに立ち直る、それが受身の極意なのです。若者よ、頭と体のやわらかいうちに、負けることをうんと学び、そして下積みや苦しみをたっぷり体験することだ。体験したことは身につく、身についたもの・・・それはほんものだ。受身さえ習っておけば何回失敗しても直ぐに立ち直ることができるから。そして、負け方や受身が本当に身についた人間が、世の中の悲しみや苦しみに耐え、人の胸の痛みを心の底から理解できる。優しく温かい人間になれるのです。』

・一部省略・

本気になればきっとほんとに真っ直ぐな自分と出逢えるはずです。どんな困難をも乗り越える、「心の根っこ」をしっかりと養うとき、それが中学生である今なのです。もうすぐ新しい年を迎えます。新しい自分を、自分の可能性を信じて、今ある自分を心から愛してください。素晴らしい一年の締めくくり、素敵な一年の始まりを心から願っています。

では、1月10日(火)三学期始業式を心待ちにしています。